

のちせやまじょうあと 17 後瀬山城跡（第9次）

所在地：小浜市小浜男山他

調査原因：史跡整備に伴う確認調査

調査期間：令和4年6月～10月

調査主体：小浜市

調査面積：150 m²

時代：室町～江戸時代



位置図（S=1/50,000）

遺跡について 後瀬山城は、大永2（1522）年若狭守護武田元光^{わかさしゆごたけだもとみつ}により築かれ、後瀬山上に城郭^{じょうかく}を、その麓に守護館^{しゅごやかた}を設けました。当城は若狭武田氏・丹羽氏・浅野氏・木下氏の歴代若狭国主の居城として、慶長6（1601）年の京極高次^{きょうごくたかつく}による小浜城築城により廃されるまで存続しました。後瀬山城跡は平成9年に国史跡の指定を受け、平成28年には守護館跡が追加指定を受けています。守護館跡の整備を中心に実施するにあたり、基本情報を得る目的で令和3・4年度の2カ年事業で調査を実施しています。

主な遺構 東側調査区で門遺構を、北側と西側調査区で堀跡を確認しています。門遺構は東西10.4m×南北8.2m分を確認しており、方形に加工した石材を据えています。東側に踏石^{ふみいし}を配していることから東側が正面であったと考えられます。これらの石材は笏谷石^{しやくだにいし}と思われます。門遺構は江戸時代から昭和前半頃まで門として存続したと考えています。堀跡は石材を7、8段積んで石垣としており、本来はあと1、2段積んでいたと考えられます。このことから本来の堀の深さは3m程あったと思われます。堀跡には裏込めが認められます。また、東側端で礎石^{そせき}が確認されており、堀の基礎の可能性が考えられます。

主な遺物 陶磁器や瓦、銭貨などが出土しています。その中でも門遺構の下層から瓦質の風炉^{がしつ}と呼ばれる茶の湯の席上^{ふろ}で釜をかけて湯を沸かす道具が出土しています。この瓦質の風炉は、城館や寺院など社会的に身分の高い場所で出土することが多いとされており、若狭守護の権威の高さを表す遺物として重要です。（西島伸彦）



写真1 後瀬山城跡・守護館跡調査区全景



写真2 門遺構



写真3 北側堀跡